

# 第10分科会「保健体育」

## 分科会の報告と討議のまとめ

### I はじめに

本年度は、5支部1市教組から6本のレポートが提出された。6本の報告内容は、「活動意欲を高める体育学習指導」（仲間との関わり・教具と場の工夫）にかかわるレポートが3本、「コロナ禍における体育のありかた（ストレッチ運動やウォーミングアップ）」にかかわるレポートが2本、「子どもの活動意欲を高めるための授業アンケート結果」にかかわるレポートが1本であった。

### II 討議の概要

#### 1. 活動意欲を高める体育学習指導にかかわるレポート

（1）一人ひとりの子どもが、活動する喜びを味わう体育科学習のあり方  
～仲間との関わりの中で、楽しさを実感できる第5学年シンクロマット運動～

久留米支部からは、5年生のシンクロマット運動の実践が報告された。コロナウイルス感染予防対策による休校中の子どもに対する意識アンケートから、「体を動かしたい」「友だちとの体育が楽しみ」という結果から行われた実践で、マット運動が苦手な子どもも自分の役割を見つけ、発表会に向けて意欲的にとりくめるようになっていく姿が見られるレポートだった。動画を見せたり、自分たちの演技を撮影したものを見返しながらタイミングを図ったりする活動があり、ICTを活用し、また、流行している歌謡曲を課題曲にするなど、子どもたちをやる気にさせる手立てがあった。チームとしての声かけに重点を置いたことで協力する意識が高まったことが報告された。新型コロナウイルス感染症禍で体育の時間数が制約され、5時間しか活動時間を取れなかったことも報告され、もっと技を身につけさせてから発表会ができればよかったのではないか、という意見が出された。

（2）運動する喜びを味わう体育科学習指導  
～打って！走って！守って！5の1ティーベースボール～

浮羽・三井支部からは、ティーベースボールの実践の報告があった。ボール運動が苦手な子どもたちが、ルールや用具の工夫でいきいきと楽しめるように変わっていく様子が見られるレポートだった。ベースボール型ゲームの課題である守備面に工夫をし、グローブを板型にして、それに当てることができればアウト。送球するときには大きな的を用意して、それに当てることができればアウト。など、ボールの扱いが苦手な子どもの視点に立って、工夫された手立てが多く見られた。また、ルールの決め方は子どもから出た意見を参考にして作られたものだという点も体育学習の中でとても大切な視点であることを再認識させられた。

（3）誰もが熱中するゴール型ゲームの開発  
～見つけて使う！つくって決める！マウンテンハンドボール～

築上・豊前支部からは、ハンドボールの実践の報告があった。子どもたちに「体育は楽しい」という思いをもたせたい、ということからとりくまれた実践であった。ゴールやコートの変えて、点が入りやすいようにしたことや、パスの意識を高めること、ボール

を扱いやすくするために、ボールの空気を抜いていたことが主な手立てとして報告された。また、単元の展開として、導入段階でたくさん点が入りすぎたことによって、ディフェンスの意識が高まったことも成果として挙げられた。コートを工夫したことによりチームの作戦も幅が広がり、作戦が上手くいく喜びも感じることができ、運動が苦手な子も楽しめたことが分かる実践報告だった。

#### (4) 準備運動（ストレッチタイム）のとりくみ

～コロナ禍の今を振り返って～

行橋・京都支部からは、準備運動（ストレッチタイム）の実践の報告があった。校内の体力テストで、長座体前屈のポイントが低いという結果が出たことから、職員研修でストレッチを実践し、体育の授業前の予備運動としてストレッチにとりくんだ、という実践だった。新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初は国語・算数に力が入られ、徐々に体育に目を向けられる余裕が出てきた今だからこそ、**ストレッチの重要性**を考えさせられる報告だった。

さらに、行橋・京都支部では、着衣水泳のレポート提出を予定していたが、水不足、新型コロナウイルス感染対策により、2年連続で水泳学習が行われてないことも話題になり、着衣水泳に関する意見交換も行われた。

#### (5) 35分授業でも大丈夫！手軽に楽しくウォーミングアップ

福岡市教組からは、新型コロナウイルス感染症により小学校は1コマ35分、中学校1コマ40分で授業が行われている中で、子どもの学習時間の確保・運動量の保障を課題とした手軽で楽しいウォーミングアップの実践が報告された。福岡市の実践では、**脳と体が運動する運動**例として「しっぽとりおにごっこ」「しっぽとりずもう」「へびじゃんけん」「なべなべそこぬけ」が紹介された。他支部からも「タイ・タコおいかけっこ」や「リズムジャンプ」「ボール投げ運動につながる運動」などの実践が紹介された。実践に関するルールや場作りについての解説や子どもの反応例などが語られ、大いに盛り上がった。

#### (6) 活動意欲を高める運動の指導

～指導工夫改善に向けて 授業アンケートから見たもの～

柳川・みやま支部からは、中学生の体育に対する実態アンケートからの考察が報告された。支部内13校中8校、約2000人からのアンケート、という大規模なものであることにも驚かされたが、その結果も実に興味深いものであった。**小学校までは「好き」の割合が多かった運動領域が中学校になると、「嫌い」の割合が多くなることに様々な意見が述べられた。**専門性を求める指導、武道などは道具の準備の都合上、基礎運動しかできていない学校もあるということ、心身の発育、などが意見として挙げられた。また、考察の中で、「体づくり運動」の定義も話し合われた。専門委員の中でも「体づくり運動」に関しては、はっきりとしたものがなく説明が難しい、という結論になった。今後の課題である。

### III 総括討論

<自由討論：運動の楽しさとは？>

○仲間とともに考え、動くこと。

○運動が苦手でも作戦会議などで考えを出せる子どももいる。

○新型コロナウイルス感染症禍でも楽しめる体育のあり方を考えること。